

研修実施報告書

研修名

福祉人材育成チーム R7 年度リーダー研修

法人名

NPO 法人 福祉ネットこうえん会

開催年月日

【助成金対象】

第3回:令和7年10月22日(水)

第4回:令和7年12月5日(金)

第5回:R8 年 1 月 29 日(木)

【助成金申請対象外】

第1回(令和7年7月7日、8月7日)、第2回(来27年9月18日)、第6回(令和8年3月10日予定)

開催場所

第3回:サン・サンホーム小浜(小浜市遠敷 84-34-)

第4回:リブラ若狭(若狭町中央 1-2)

第5回:リブラ若狭(若狭町中央 1-2)

研修の目的

目指すべき職員像<①自ら主体的に考え判断し行動できる ②利用者主体の(利用者の想いに寄り添える)実践力のある職員 ③周囲を巻き込みながら、チーム構築できる職員 ④制度や法律を理解し、自分たちの存在価値を高められる職員 ①~④を軸として「人を育てることができる職員」>を念頭に入れた研修の組み立てにより、地域づくりを意識した日々の取り組みの(実践)につなげられる人材育成、事業所内外で人材育成できる人材の育成につなげていく。

研修の内容

<第3回>

内 容:「意思決定支援とその実践」

○講義、グループワーク、OJT(意思決定支援の実践と振り返り)

意思決定支援のポイントやプロセスの理解を深め、ご本人に合わせた実践や

その展開について考える

講 師:一般社団法人 日本意思決定支援ネットワーク SDM—Japan 本間 奈美氏

<第4回>

内 容:「障害福祉の変遷と家族・きょうだい支援について」

○講義、演習、OJT(本人・家族支援を自身や事業所で実施)

障害福祉制度を振り返りながら本院支援と家族支援の変化を知る。

この地域の本人支援、きょうだい支援について考える

講 師:明星大学 人文学部 福祉実践学科 教授 吉川 かおり氏

<第5回>

内 容:「コンピテンシーをふまえた研修づくりについて」

○講義、演習、OJT(研修の企画・運営…3 月中に実施)

研修の企画運営に大切なことを学ぶ

自分たちで研修を企画、運営する

講 師:長野大学 社会福祉学部 准教授 相馬 大祐氏

研修の成果(今後地域に活かされる点を必ず記載)

- ・地域で暮らす障害のある方々や家族に対する支援の質や生活の質の向上
- ・受講者のスキルアップが図れ、事業所間の横のつながりが強くなり、事業所内外での人材育成が図れ、利用する方々の生活の質が高まる
- ・価値の共有により、同じ目線で・地域の体制について考える支援者が増え、地域づくりにつながる
- ・受講者が自立支援協議協議会等における活動において、運営の補助(ファシリテーター役を担う、研修等の企画運営に携わる当)を任せていくことにより、次世代に繋げながら人材育成が図れる。

研修の参加者

【全体人数】

第3回:37名

第4回:43名(内、オンライン7名)

第5回:24名(内、オンライン8名)

【当該法人の参加人数】

第3回:2名

第4回:2名

第5回:3名

【当該法人以外の参加人数】

第3回:35名

第4回:41名

第5回:21名



研修効果を考える

| | | |
|---------|---|--------|
| レベル1 反応 | 受講者自身が感じたものを問う | 効果的な研修 |
| レベル2 学習 | 研修後に受講者自身がどの程度知識が増え、技術が向上したかを測るもの | |
| レベル3 行動 | 研修後に受講者自身の行動がいかに変化したかを測るもの | 研修の効果 |
| レベル4 成果 | 離職率の低減、生産性の向上、品質の向上、無駄の削減、効率化、売上増加、費用削減、利益増加等 | |

「研修の現場で学んだことが、仕事の現場で一般化され役立てられ、かつその効果が持続されること」を研修転移と定義（中原2014）。レベル3行動が重要であるという指摘がある。



若狭 ねっと

